

臨床経験科目「教育参加」における学生の体験内容

谷塚光典 附属教育実践総合センター

土井 進 教育科学講座

東原義訓 附属教育実践総合センター

1 はじめに

信州大学教育学部では、平成8年度より1年次生必修科目として臨床経験科目「教育参加」(“Teaching Participation”)を開設している。臨床経験の科目として、1年次でこの「教育参加」、2年次で「学校教育臨床演習」、3年次で「教育実習事前・事後指導」と「基礎教育実習」を履修することになっている。「教育参加」の開設までの経緯やその実践については、小林・土井(1997)や土井(1998)、そして附属教育実践総合センター(前身の附属教育実践研究指導センターを含む)編の報告書において詳細に報告されている。また、例えば別惣・長澤(1999)が報告しているように、他大学・学部においても社会教育施設と連携した臨床経験的科目を開設している場合もある。

しかしながら、土井(1998)も課題として指摘しているように、「教育参加」の活動そのものの分析や活動に参加することによって学生が経験したことなどを詳細に分析する必要がある。そのことによって、教員養成カリキュラムの一環としての「教育参加」が果たす役割を明らかにし、より効果的な「教育参加」の実践そして教員養成カリキュラムの改善への示唆を得ることができよう。

そこで、本研究では、これらの基礎的作業として、「教育参加」の活動への参加傾向を明らかにすることと合わせて、「教育参加」の活動に参加した学生が何を経験してきているのかを明らかにすることを目的とする。

そのために、まず、本年度の「教育参加」の概要を述べ、「教育参加」の活動における体験内容を機関の種類ごとに検討する。そして、それらの活動の希望・参加傾向を専攻別に分析する。

2 平成13年度「教育参加」の概要

「教育参加」は、教育に関心を抱いて教育学部に入学した1年次生が、信州大学教育学部附属学校園や県内外の少年自然の家・青年の家、県内の養護学校における教育活動や行事に参加したり授業を参観したりすることを通して、子ども理解、教師理解、学校理解を深め、教職への関心・意欲を高めることを目的としている。1年次生が、学校や社会教育施設で行われる教育活動の実際場面に参加したり、教育実習の様子を参観したりすることによって子どもたちや教職員と触れ合うことは、教職への認識を深める機会となり、教育学部で4年間にわたって学んでいく基礎となる。

なお、この科目は、教育職員免許法施行規則第6条第二欄「教職の意義に関する科目」((1)教職の意義及び教員の役割、(2)教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)、(3)進路選択に資する各種の機会の提供等)として実施する科目である。

「教育参加」は、附属教育実践総合センター(以下、実践センター)教官が担当している。そして、「教育参加」連絡会を組織し、実施計画案の立案を行っている。協力機関は、平成13年度は次の16機関である。これらの各機関や長野県教育委員会、教育学部各専攻1年次担任教官の協力を得て、「教育参加」が実施されている。

信州大学教育学部附属幼稚園	長野県松本青年の家	長野県松本盲学校
信州大学教育学部附属松本小学校	長野県小諸青年の家	長野県寿台養護学校
信州大学教育学部附属松本中学校	長野県松川青年の家	長野県安曇養護学校
国立信州高遠少年自然の家	長野県須坂青年の家	長野県花田養護学校
国立乗鞍青年の家	長野県望月少年自然の家	
国立妙高少年自然の家	長野県阿南少年自然の家	

平成 13 年度の年間授業計画は表 1 のとおりである。教育学部 1 年次生全員 285 名（うち 2 名が本年度未履修）と科目等履修生等 4 名の計 287 名が受講生である。学生は、4 月末～3 月に各協力機関で行われる教育活動に参加する他、全体会（全 9 回）に出席する。第 1 回目の全体会（オリエンテーション）において、16 機関全 207 の活動から、ポイント数が 8 ポイント以上になるように活動を選択して、4 月末までに希望カードを提出する。そしてこれらの参加希望をとりまとめ、実践センターで調整した上で、第 3 回目の全体会のときに、参加活動のコードを記載した一覧表を配布した。

各活動には 1 または 2 のポイント数が割り振られている。半日～1 日で終了する活動を 1 ポイント、宿泊を伴う活動や複数日にわたる活動を 2 ポイントとすることを原則としているが、活動の内容によって多少の変更がある。この授業の単位の認定を受けるために、学生は、計 4 ポイント以上の活動に参加してそのうち 2 つ以上の活動についてレポートを提出することが求められている。つまり、最低でも 2 つの活動（2 ポイントの活動を 2 つ）、多ければ 4 つの活動（1 ポイントの活動を 4 つ）に参加する必要がある。また、積極的な学生の希望に対応するために、学生が希望する場合は、5 ポイント以上の活動に参加することも認められており、それを奨励している。ただし、他の授業や介護等体験と重複しないように指導している。

学生は、活動終了後 2 週間以内にレポートを提出する。提出されたレポートは、教育学部各専攻 1 年次担任教官が評価を行う。このレポートの成績と全体会の出席状況を総合的に判断して、実践センター教官が単位を認定することになる。

実践センター担当教官の役割は、協力機関と学生との間に立ち、協力機関には必要な情報を連絡し、学生には参加予定の活動にしっかりと参加できるように指導を行うことである。年度当初に学生が参加する活動は決定するが、そのあとから生じたさまざまな事情（冠婚葬祭、サークル活動の大会、天候による活動中止、参加する活動の追加希望、等々）に応じて、参加学生が変更になることがあるが、その調整も大きな仕事である。

3 「教育参加」の活動における体験内容

3. 1 各機関における活動の分類

16 の機関における活動は、全 207 に及ぶ。青年の家や少年自然の家の社会教育施設（以下、社会教育施設）9 機関における活動は、長野県教育委員会文化財・生涯学習課の分類にしたがって、自然体験・野外活動、生活体験、生活創造、歴史体験、国際体験、スポーツふれあい、科学、ボランティア、の 8 つと、筆者が追加した、指導者講習・研修、指導者講習・研修補助、の 2 つの合わせて 10 に分類できる。また、信州大学教育学部附属松本地区学校園（以下、附属学校園）及び盲学校・養護学校（以下、養護学校）7 校における活動は、学生が体験する活動内容によって、教科指導の補助（養護学校では日常の指導補助）、教科外活動の補助（養護学校では行事の補助）、クラブ活動指導補助、校外活動の補助、作業の補助、研究会・教育実習参観、の 6 つに分類できる。なお、養護学校では、

表1 「教育参加」の年間授業計画

	月日・時限	授 業 内 容	実施会場	担 当 者
全 体 会	4/20 (金) 5コマ目 (16:20～ 17:50)	オリエンテーション 「教育参加」の目的 協力機関からの案内 提出書類の記入	20番教室	実践センター長、実践センター専任教 官、教育学部各専攻1年次担任教官、 附属松本地区副校長、国立信州高 速・妙高少年自然の家、国立乗鞍青年 の家、松本・小諸・松川・須坂青年の 家、望月・阿南少年自然の家、松本盲 学校、寿台・安曇・花田養護学校
	5/11 (金) 5コマ目	教職論講義(1)	20番教室	実践センター長、実践センター専任教 官、佐藤明・附属幼稚園副園長
	5/18 (金) 5コマ目	参加する活動の決定 レポートの書き方	20番教室	実践センター長、実践センター専任教 官
	6/15 (金) 5コマ目	教職論講義(2)	20番教室	実践センター長、実践センター専任教 官
	7/13 (金) 5コマ目	教育実習の参観のしかた 教職論講義(3)	20番教室	実践センター長、実践センター専任教 官
	10/5 (金) 5コマ目	参加者からの報告会 レポートの提出について	20番教室	実践センター長、実践センター専任教 官
	11/9 (金) 5コマ目	教職論講義(4)	20番教室	実践センター長、実践センター専任教 官、小池守・望月少年自然の家次長
	12/7 (金) 5コマ目	教職論講義(5)	20番教室	実践センター長、実践センター専任教 官、中山邦彦・松本盲学校長
	1/11 (金) 5コマ目	教職論講義(6)	20番教室	実践センター長、実践センター専任教 官、北澤明・附属松本中学校教頭
参 加 体 験	通 年	附属幼稚園の教育活動 附属松本小学校の教育活動 附属松本中学校の教育活動 国立信州高速少年自然の家の教育活動 国立妙高少年自然の家の教育活動 国立乗鞍青年の家の教育活動 長野県松本青年の家の教育活動 長野県小諸青年の家の教育活動 長野県松川青年の家の教育活動 長野県須坂青年の家の教育活動 長野県望月少年自然の家の教育活動 長野県阿南少年自然の家の教育活動 長野県松本盲学校の教育活動 長野県寿台養護学校の教育活動 長野県安曇養護学校の教育活動 長野県花田養護学校の教育活動	附属幼稚園 附属松本小学校 附属松本中学校 国立信州高速少年 自然の家 国立妙高少年自然 の家 国立乗鞍青年の家 松本青年の家 小諸青年の家 松川青年の家 須坂青年の家 望月少年自然の家 阿南少年自然の家 松本盲学校 寿台養護学校 安曇養護学校 花田養護学校	附属幼稚園教官 附属松本小学校教官 附属松本中学校教官 国立信州高速少年自然の家職員 国立妙高少年自然の家職員 国立乗鞍青年の家職員 長野県松本青年の家職員 長野県小諸青年の家職員 長野県松川青年の家職員 長野県須坂青年の家職員 長野県望月少年自然の家職員 長野県阿南少年自然の家職員 長野県松本盲学校教諭 長野県寿台養護学校教諭 長野県安曇養護学校教諭 長野県花田養護学校教諭
教育 実習 参観	9/10 (月) ～9/14 (金)	附属幼稚園での教育実習 附属松本小学校での教育実習 附属松本中学校での教育実習	附属幼稚園 附属松本小学校 附属松本中学校	附属幼稚園教官 附属松本小学校教官 附属松本中学校教官

研究会・教育実習参観に分類される活動はないため、それ以外の5つに分類した。この基準に従って分類すると、表2のようになった¹⁾。

3.2 社会教育施設における活動での体験内容

社会教育施設である青年の家や少年自然の家における活動は、計100活動であった。

その中でも、自然体験・野外活動に関する活動が活動全体の約半数を占めている。特に、松川青年の家や望月少年自然の家では、その立地条件を活かしたこれらの活動が多い。この活動には、豊かな自然の中での登山や動植物観察、キャンプや野外炊飯などの野外活動が含まれる。学生は、そのような活動に参加者として参加するだけでなく、親子や家族での参加者への補助者という役割も果たすことになる。また、J02・J03・J05（表3中のコード名、以下同様）では、この活動に参加して試験に合格することによって、ネイチャーゲーム初級指導員やキャンプインストラクターなどの資格を取得することもできる。このような資格は、「教育参加」の他の活動に参加するときや実際に教員になったときに非常に役立つものである。

また、L05とM05はいずれも、長野県教育委員会と少年自然の家が共催している「ふれあい自然体験活動推進事業」として実施されている「ふれあい自然体験キャンプ」に学生スタッフとして参加する活動である。この活動は、キャンプ自体が6泊7日、それに前泊と後泊がありさらに事前研修として「指導者講習・研修」に分類されているL03やM03に参加する。日程的に長い活動であり、かなりの気力と体力を要する活動ではあるが、さまざまな小中学生たちとじっくりつきあい、共に自然

表2 社会教育施設・附属学校園・養護学校における活動数

【社会教育施設】	高遠	妙高	乗鞍	松本	小諸	松川	須坂	望月	阿南	計
自然体験・野外活動	4	14	10	2	3	7	3	7	3	53
生活体験	4			1	1			1	3	10
生活創造				3			1			4
歴史体験	1			1	1		1			4
国際体験					1					1
スポーツふれあい					1		4			5
科学								1	1	2
ボランティア		2		1	1	2	1			7
指導者講習・研修		3	7					1	1	12
指導者講習・研修補助		2								2
計	9	21	17	8	8	9	10	10	8	100

【附属学校園】	幼稚園	松本小	松本中	計
教科指導の補助			10	10
教科外活動の補助	9	1	2	12
クラブ活動指導補助			5	5
校外活動の補助	1	1	1	3
作業の補助	7	2		9
研究会・教育実習参観	2	2	1	5
計	19	6	19	44

【養護学校】	松本盲	寿台養	安曇養	花田養	計
日常の指導補助	12	8	1	3	24
行事の補助	2	5	7	3	17
クラブ活動指導補助	3				3
校外活動の補助	2	2	12		16
作業の補助	1	2			3
計	20	17	20	6	63

表3 各機関における代表的な活動

コード	機関名	活動名	内容
【社会教育施設】			
【自然体験・野外活動】			
E10	国立妙高少年自然の家	MYOKO光と風のフェスティバル	完全学校週5日制に向けて家族等が豊かな自然の中で、オリエンテーリングや紙すき、草木染め、餅つき、ニュースポーツ等を体験し、施設の状況や事業についての理解を深めるための事業で、活動補助者として、用具・会場及び資料の準備を行う。
J02	長野県松川青年の家	めざせ人気者！これで君もリーダーだ～ネイチャーゲーム技術編～	ネイチャーゲームについての知識と技術を習得する。ネイチャーゲーム初級指導員資格取得の講習を兼ねる。
J03	長野県松川青年の家	めざせ人気者！これで君もリーダーだ～キャンプ技術編（1）～	テントの設置、料理、キャンプファイアー等の知識と技術を取得する。キャンプ技術編（2）も受講すれば、キャンピングストラクター資格取得の講習となる。
J05	長野県松川青年の家	めざせ人気者！これで君もリーダーだ～キャンプ技術編（2）～	野外活動と安全管理、テントの撤収などの知識と技術を学ぶ。
L05	長野県望月少年自然の家	ふれあい自然体験キャンプ	不登校児童生徒のためのキャンプにボランティアスタッフとして参加
M05	長野県阿南少年自然の家	ふれあい自然体験キャンプ～君の笑顔をに会いたいな～	夜間登山、川遊び、自然体験選択プログラム、野外炊飯、キャンドルサービス、クラフト、分校を訪ねる、など
【生活体験】			
D02-1	国立信州高遠少年自然の家	みんな友だち～土と人～Part 1	事業の活動補助として用具の準備や資料準備を行う。心身に障害のある方を含む親子や家族とともに野菜作りなどに参加する。（活動例：野菜作り、草取り、調理活動・交流活動など）
H06	長野県小諸青年の家	きのご名人をめざそう	浅間山麓でのきのご作り、誦詩「きのご」、シタケ栽培講習、きのご鑑定、きのご汁餅食
L09	長野県望月少年自然の家	ひと足早い年越し準備	クリスマスリース作り、ミニ門松作り
M01	長野県阿南少年自然の家	南信州食歩き～いちご狩りと手作り五平餅～	手作り五平餅に挑戦、いちご狩り、クラフト（紙飛行機・竹とんぼ・ブーメランなど）
【生活創造】			
G05	長野県松本青年の家	クラフトのつどい	クラフトの基礎技能。かご、クリスマスリース作り、マジックバルーン。
G08	長野県松本青年の家	押し絵・折り紙に挑戦	押し絵製作の基礎技能、製作。ユニット折り紙の基本、作品制作。
K06	長野県須坂青年の家	クラフトと星の観察	自然素材を使ったリース・つる細工・木の枝を使った昆虫製作・星の観察
【歴史体験】			
D04	国立信州高遠少年自然の家	「中仙道・甲州街道」歩け歩け旅～仲間とつくる6泊7日～	歩き旅への参加者（小・中学生）のリーダー、カウンセラーとして活動する。（活動例：野外炊飯やキャンプ生活全員のリードや歩き旅への引率、補助、等）
G02	長野県松本青年の家	お城不思議探検隊	松本城の歴史（講義）、城郭と庭園周辺の探索、町並み探訪。
H05	長野県小諸青年の家	スケッチ文化の町を歩こう	ふるさとの話、交流会、現地見学（中継見学、文化財見学）
【国際体験】			
H07	長野県小諸青年の家	受け継ぐ伝統～国際交流とともに～	紙すきの話、紙すき、国際交流（夕食会、分科会）、しめ飾りの話、しめ飾りづくり
【スポーツふれあい】			
H08	長野県小諸青年の家	スキーとのふれあい	スキーオリエンテーション（講義）、冬芽の観察とお話、交流会、実技実地指導
K07	長野県須坂青年の家	ウィンタースポーツ講習	ウィンタースポーツの基本と応用技術、指導法・スキー、スノーボード実技講習
K08	長野県須坂青年の家	ふれあいスキー	スキーの基本と応用技術の学習・クラス別実習講習・レクリエーション
【科学】			
L04	長野県望月少年自然の家	豆休み観察実験教室	野外での自然観察、科学工作、科学実験
M08	長野県阿南少年自然の家	おもしろ科学工作Ⅲ～サッカー・ロボを作ろう！～	ロボット製作の基礎、ロボット製作、ロボットサッカー大会
【ボランティア】			
E01	国立妙高少年自然の家	妙高少年自然の家ボランティア養成講習会	本少年自然の家のボランティア協議会と共催で開催し、講義や実習を通してボランティアの指導力や資質の向上を図る。事業の補助者ではなく、本講習会の参加者となる※今後、教育参加やボランティアを行うための事前研修として参加が望ましい。
G04	長野県松本青年の家	社会教育施設ボランティア講座	講義、鑑賞、施設の事前学習会。ボランティア体験学習、全体会。
J06	長野県松川青年の家	社会教育施設ボランティア講座（1）今なぜボランティアか	ボランティアと実地研修についての基礎を学ぶ。
【指導者講習・研修】			
E02	国立妙高少年自然の家	教職員等プロジェクトアドベンチャー講習会	学校の教育活動において、プロジェクトアドベンチャーを活用した教育（主として「心の教育」）を推進するために、教職員等の指導者養成及び底辺の拡大を図る。事業の補助者ではなく、本講習会の参加者となる。
L03	長野県望月少年自然の家	少年団体指導者研修会	キャンプ技術の習得、野営体験、動物とのふれあい、古代クラフト
M03	長野県阿南少年自然の家	少年団体指導者研修会～キャンプサポートの実践～	キャンプサポート講習（野外施設の活用・野外炊飯の方法）、クラフト講習、安全対策講座、など
【指導者講習・研修補助】			
E07	国立妙高少年自然の家	はつらつジュニアリーダー研修会	中学生のリーダーを育成するために、各グループの助言者・支援者として活動を行う。又、事業の活動補助者として、用具・資料等の準備を行う。
【附属学校園】			
【教科指導の補助】			
C07-1	附属松本中学校	英語授業IT①	モデル対話、読解
C11	附属松本中学校	美術の日引率指導	学級ごとの美術科の総合的な取り組みに参加し個別指導及び引率補助（表現・鑑賞）
C14	附属松本中学校	選択家庭科「被服の製作」	被服製作の遅れがちな生徒への個別指導
【教科外活動の補助】			
A03-1	附属幼稚園	誕生会（6月）	誕生会参観。3分間ほどの出し物をする。誕生会後、園見と遊ぶ。
B03	附属松本小学校	運動会	用具、放送、来入見等の係活動及び片づけ
C12	附属松本中学校	ペンキ塗り	生徒とともにペンキ塗りをする、生徒会活動補助
【クラブ活動指導補助】			
C02	附属松本中学校	男子バレーボール指導補助	基礎技術の指導、試合形式の練習相手
C05	附属松本中学校	合唱クラブ指導	合唱の響きをもとに体験し、楽曲の表現を深める
C06	附属松本中学校	吹奏楽クラブ指導	楽器の基礎練習の指導、合奏の中でともに演奏する
【校外活動】			
A08	附属幼稚園	秋の遠足	遠足引率の補助
B04	附属松本小学校	秋の遠足	全校総動員遠足の引率指導
C16	附属松本中学校	秋の松本城清掃	クラスに入ってともに清掃する
【作業の補助】			
A04-1	附属幼稚園	保育補助と園内環境整備①	園児の帰りの会に参加したあと、砂場の整地、池の清掃、遊具のペンキ塗り等をする。
A09	附属幼稚園	幼年教育研究会準備	前日準備。窓ふき、保育室の整理、屋外整備等をする。（子どもはいない）
B02	附属松本小学校	運動会前日準備	運動会の会場、装飾、用具等の準備
B05	附属松本小学校	学習指導研究会（仕事）	受付、会場、駐車場係等の仕事
【研究会・教育実習参観】			
A05	附属幼稚園	保育参観	教育実習中の実習生の保育を参観し、実習生や子どもたちの様子を参観する。
A10	附属幼稚園	幼年教育研究会参加	研究会に参加し、子どもたちの様子を参観する。
B01	附属松本小学校	教育実習参観	教育実習生がする授業を参観する。
B06	附属松本小学校	学習指導研究会（参観）	総合的な学習の時間、算数、音楽、音楽集会等の授業参観と、授業研究会及び講演会への参加
C10	附属松本中学校	教育実習中の授業参観	3年次実習生の授業参観
【養護学校】			
【日常の指導補助】			
N03	長野県松本盲学校	合同の時間A	重聴児童児童生徒の生活単元学習の補助
R09	長野県奉台養護学校	小学部・造形の日2	子どもたちと一緒に一日粘土に戯れ、好きなものを作る。
T05	長野県花田養護学校	人権週間	週間中の活動の手伝い、児童生徒の学習活動への参加と援助
【行事の補助】			
N12	長野県松本盲学校	文化祭「水仙祭」	文化祭の準備、手伝い
R02	長野県奉台養護学校	運動会（当日）	運営補助や子どもの介助等。参観。
S10	長野県安曇養護学校	〈中学部〉かふとの会	餅つきをして昼食を行う。準備や片付けなどの仕事
【クラブ活動指導補助】			
N05	長野県松本盲学校	部活動「盲人バレーボール」	部活動指導・補助
N06	長野県松本盲学校	部活動「グランドソフトボール（盲人野球）」	部活動指導・補助
【校外活動の補助】			
N19	長野県松本盲学校	スケート教室（小中）	美須々湖でのスケート学習に参加
R17	長野県奉台養護学校	高等部・1日キャンプ	生徒たちとともに、松本近郊のキャンプ場で野外生活をする。
S07	長野県安曇養護学校	〈中学部〉サイトウキネンコンサー	当日の日程で生徒と関わって行動する
【作業の補助】			
N08	長野県松本盲学校	関東盲学校弁論大会	大会運営の補助
R01	長野県奉台養護学校	運動会（準備）	前日準備。子どもの介助等。
R03	長野県奉台養護学校	学校祭（準備）	前日準備。子どもの介助等。

体験する活動である。学校では、理科や生活科などの教科指導でも、自然教室や林間学校などの教科外活動でも、子どもたちを自然に連れ出し自然と親しませることが多い。また、川遊びやキャンプなどのときに注意すべき点を教師は理解しそれを子どもたちに指導する必要がある。このような自然体験・野外活動に参加して体験しておくことは重要であろう。

また、生活体験、生活創造、歴史体験、国際体験に関する活動への参加を通して、学生一人では日常の学生生活においてなかなか経験できないことを、親子や家族などの参加者と共に経験することができる。これら4種類の活動をあわせると、全活動中の約2割になる。生活体験に関する活動では、H06やM01のように、採集・調理活動など食に関する活動が多い。また、生活創造に関する活動では、G05やG08のように、季節に合わせてクリスマスリースや押し花などを製作する。歴史体験では、施設から近隣にある城郭や史跡、文化財を探訪するG02やH05の活動がある。そして、数は少ないが、H07のように、地域在住の外国人を招いた活動に参加することによって国際交流の体験をする活動もある。生活科や総合的な学習の時間においては、季節に応じた内容や地域や学校の実態に応じた内容を取り入れて、各学校が創意工夫して実施することになっている。特色ある学校づくり、特色ある授業づくりをするためには、このようなさまざまな体験を、親子や家族等の参加者の補助もしながら体験しておくことが有効であろう。

菅平に隣接している須坂青年の家では、スポーツふれあい活動として、K07やK08のように、スキーやスノーボードなどのウィンタースポーツを中心とした活動を実施している。

前述のネイチャーゲーム初級指導者養成講座(J02)等の他に、講座や研修に関係する活動としては、ボランティアや指導者に関する講座・講習がある。E01やG04などのボランティア養成講座は、参加者として参加して講義や実習を受けることによって、ボランティアについて学習することができ、今後のボランティア活動に参加する上での基礎となる活動である。また、指導者講習・研修に関する活動としては、E02やE07があるが、E02は講習会の参加者として参加するのに対して、E07は中学生を対象とした研修会の活動補助者として参加することになっている。講習会の参加者として参加することも重要であるが、子どもたちの中に入って補助者として活動することも貴重な経験となる。

このように、「教育参加」として社会教育施設の活動に参加することによって、学生は、自然・生活・歴史・国際・スポーツなどさまざまな体験を自分が体験するだけでなく、各事業へ一般参加している子どもたちや家族とふれあうこともできる。そして、活動によっては、今後「教育参加」の活動に参加する上で、そして、教員になってからも役に立つ技能や資格を取得することもできる。

3.3 附属学校園における活動での体験内容

附属学校園では、教育参加の活動として44の活動があった。

附属学校園における活動としては、学校行事やクラブ活動、校外活動など、教科外活動の補助に関する活動が多い。教科外活動では、A03-1やB03の誕生会や運動会などの学校行事の他、C12のペンキ塗りのような活動もある。学生がこれらの活動に参加することによって、学校行事における教師の補助的役割を果たすだけでなく、行事にいきいきと取り組んでいる子どもたちの輪の中に入り、子どもたちにじかに接することができる。また、クラブ活動補助では、例えばC06の吹奏楽クラブ指導では、学生が自分の所有している楽器を持参して、パート練習で指導したり合奏に加わって演奏したりする。特にパート練習では、難しいフレーズのお手本を吹いてみせたり演奏のコツを教えたりすることによって、音楽を通して生徒と緊密な関係を構築することができる。教員になってからクラブ指導をすることがあるので、いい経験となる。そして、校外活動では、A08やB04のように季節の遠足

に同伴し遠足引率指導の補助を行う。これらの活動に参加することによって、学生は子どもたちと接することができ、子ども理解への基礎を築くことができるであろう。

学校行事を行うにあたってまた学習の場を子どもたちに提供するにあたっては、その準備も教員の重要な仕事である。そのような、いわゆる「裏方」を経験するのが、A04-1やB02のような作業の補助に関する活動である。また、幼年教育研究会や学習指導研究会(A10・B06)に参加して子どもたちを観察することも活動の一つであるが、その研究会の準備や当日の運営補助(A09・B05)をすることも教育参加の活動として提供されている。これらの活動に参加することによって、子どもたちとは接していない場面での教員の仕事を体験することができる。

3校園ともに、3年次教育実習の授業参観・保育参観(A05・B01・C10)を取り入れている。この活動に参加することで、子どもたちの学習の様子を参観することができるにとどまらず、自分の先輩たちが教育実習に取り組む場面に接することができる。3年次に履修する「教育実習事前・事後指導」でも、教育実習生の姿をビデオで見る機会はあるが、「教育参加」としてこのような活動に参加することを通して、教育実習の様子を目の当たりにすることができ、なかには2年後の自分の姿を想像する学生もいるであろう。

また、附属松本中では、C07-1やC14のようなTT（ティームティーチング）という形で、教科指導の補助に参加できる。実際の教育実習は3年次以降であるが、1年次の段階で「教壇に立つ」ことができる絶好の機会である。教育実習を参観したりTTで教壇に立ったりする経験を通して、教職への就職希望の意欲を高めていくことができるものと思われる。

このように、「教育参加」として附属学校園の活動に参加することによって、学生は、子どもたちと直接関わったり子どもたちを参観したりする経験をするが、それに加えて、教員としての役割を演ずることも体験できる。そして、これらのことは、教職意識の向上に寄与するものと思われる。

3. 4 養護学校における活動での体験内容

養護学校における活動としては、盲学校1校と養護学校3校で計63の活動があるが、附属学校園同様、学校内での日常の指導の補助や学校行事の補助に関する活動が多い。

N03やR09は、日常の学習場面に入って、その指導補助を経験する。また、N12やR02、S10では学校内での諸行事に、N19やR17、S07では校外に出での行事に参加して、その指導の補助を行う。また、子どもたちの介助と合わせて、運動会や文化祭など学校内での行事の準備作業として、養護学校における教員の仕事の一端を経験する活動(R01・R03)もある。

松本盲学校では、N05やN06のように、クラブ活動指導補助の活動もある。盲人バレーボールや盲人野球の指導補助を経験することを通して、通常のバレーボールや野球との違いを、その指導という視点から体験できる。

1年次生は、小学校及び中学校教諭普通免許状の取得にあたって必要な「介護等体験」として、盲・聾・養護学校（特殊教育書学校）での介護等の体験を2日間することになっているが、「教育参加」として参加する養護学校での活動は、「介護等体験」としては認定されない。

4 「教育参加」の活動の希望・参加傾向

4. 1 活動希望傾向と参加状況

4月末までに提出された希望カードに記入された参加希望活動を機関別にまとめると、図1のとおりになる²⁾。図1は、受入可能学生人数、年度当初の活動参加希望者数、本稿執筆時点での実際の参

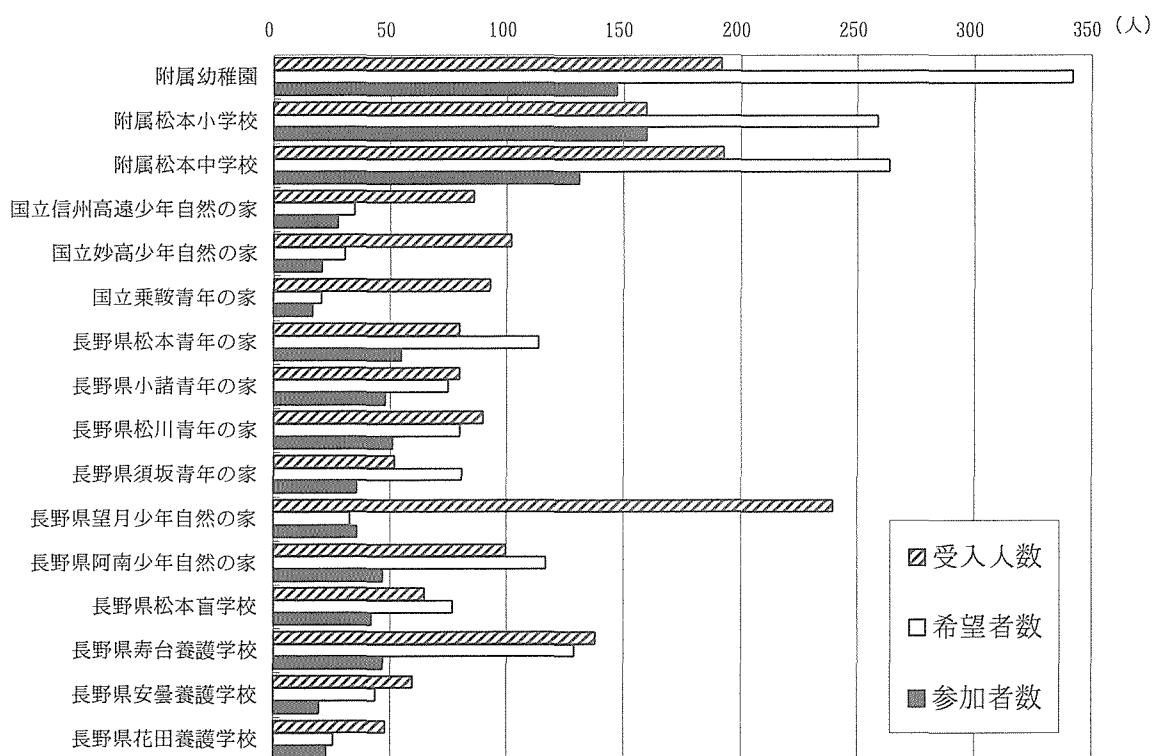


図1 機関別の学生受入人数・参加希望者数・参加者数

加者数を機関別にグラフ化したものである。

図1から、学生の参加活動希望傾向と実際の参加状況について、次の点がわかる。

1つめに、附属学校園、松本・須坂の各青年の家、阿南少年自然の家、松本盲学校は、受入学生人数を超える希望がある。その理由としては、松本市内にあること（附属学校園、松本青年の家、松本盲学校）、ウィンタースポーツに関する活動が多いこと（須坂青年の家・K07やK08）、生活体験活動で季節の味覚を味わえること（阿南少年自然の家・M01）が推測される。これらの施設の他にも同様の理由で希望が多い活動がある。

2つめに、他県の機関（妙高少年自然の家、乗鞍自然の家）や、県内でも公共交通機関の少ない信州高遠少年自然の家や望月少年自然の家は、受入学生人数に対する参加希望者数が少なく、50%に満たない。これは、「教育参加」受講者が1年次生であるため、まだ自動車の運転免許や自家用車を所有しておらず、これらの機関に向かうには公共交通機関で電車とバスを乗り継いでいかなければならないためと考えられる。しかも、バスの本数が限られるため、前泊が必要となることも多い。ただし、施設によっては、最寄りの駅まで車で迎えに来て頂けることもある。

そして、3つめに、受入学生人数に対する参加者数の割合、すなわち充足率を見てみると、県内青年の家で約6割、養護学校で3～4割であるが、他県の機関や県内少年自然の家では2～3割の施設が多く、全体でも約5割である。すなわち、各機関としては、さらに倍の学生を受け入れる可能性がある。特に、県立少年自然の家での活動の一部(L05・M05)は、「教育参加」の学生が運営の一翼を担っている活動でもあり、学生の積極的な参加が期待されている。

4.2 専攻別の活動参加状況

前項では全体的な傾向を見てきたが、ここでは、専攻別の活動参加状況を、表2で用いた活動の分類に従って分析する。本稿執筆時点までの参加状況を、社会教育施設、附属学校園、養護学校それぞ

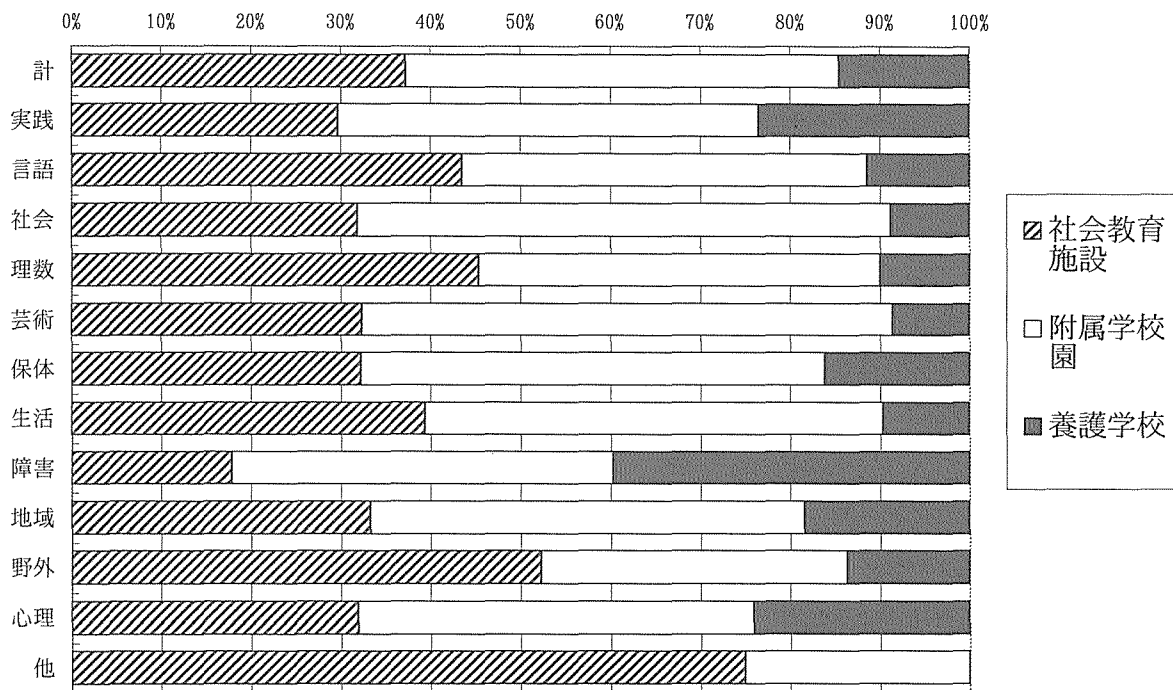


図2 専攻別の活動参加状況

れへの参加状況を専攻別に集計すると、図2のようになる³⁾。

図2からわかるように、全参加者数（のべ909名）でみると、その48.2%（438名）が附属学校園の活動に参加している。そして、社会教育施設に37.3%（339名）、養護学校に14.5%（132名）が参加している。

これを専攻ごとにみても、障害児教育専攻では、養護学校の活動に参加する割合が高くなっている一方、社会教育施設への参加の割合が低い。また、教育実践科学専攻と心理臨床専攻でも、養護学校の活動に参加する割合が高くなっている。障害児教育専攻の学生は、教育実習をはじめとして、養護学校での実習を経験することになるが、「教育参加」で養護学校の活動に参加することは、その基礎的体験として有効であろう。

また、社会教育施設における活動には、野外教育専攻や理数科学教育専攻で高い割合を示している。これは、理数科学教育専攻のうち理科教育や環境教育に関心を抱いている学生や野外教育専攻の学生が、社会教育施設における自然体験・野外活動に関する活動に積極的に参加していることを示している。また、言語教育専攻も同様に比較的高い割合を示しているが、これは、生活体験や国際体験に関する活動への参加者が多いためである。

4.2.1 社会教育施設

図2のうち、まず、社会教育施設における活動を、表2で用いた活動の分類に従って、専攻ごとに分析すると、図3のようになる。

社会教育施設に参加する学生全体で見ると、自然体験・野外活動に関する活動に参加する学生が、その活動の数と同様、約半数を占めている。これに生活体験が続ぎ、以下、生活創造、スポーツふれあいに関する活動への参加者が多い。

これを専攻別に見ると、地域スポーツ専攻と野外教育専攻という生涯スポーツ課程の2専攻では、全体平均に比べて、自然体験・野外活動に参加する学生の割合が高い。また、保健体育専攻では、ス

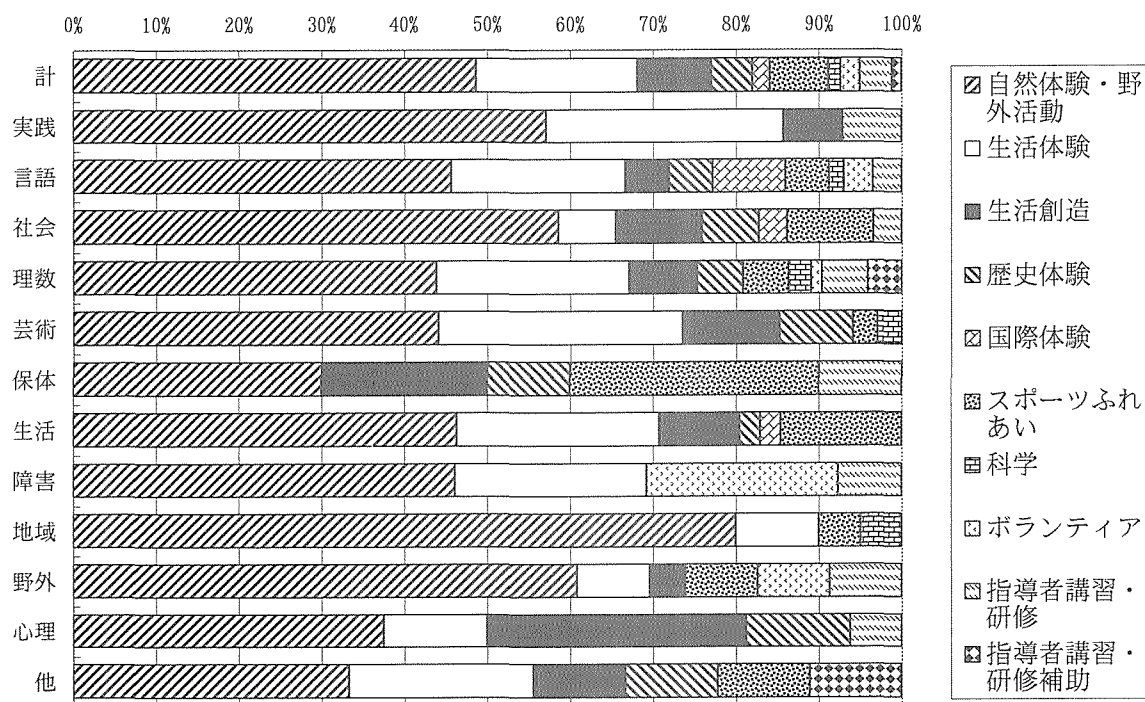


図3 社会教育施設における専攻別活動参加状況

スポーツふれあいに関する活動の割合が高い。これらはいずれも、自分の専攻する内容と関係が深い活動であり、このような活動に参加してさまざまな体験をすることは、専攻の専門性の点からも重要であろう。

4. 2. 2 附属学校園

次に、附属学校園における活動を専攻ごとに分析すると、図4のようになる。

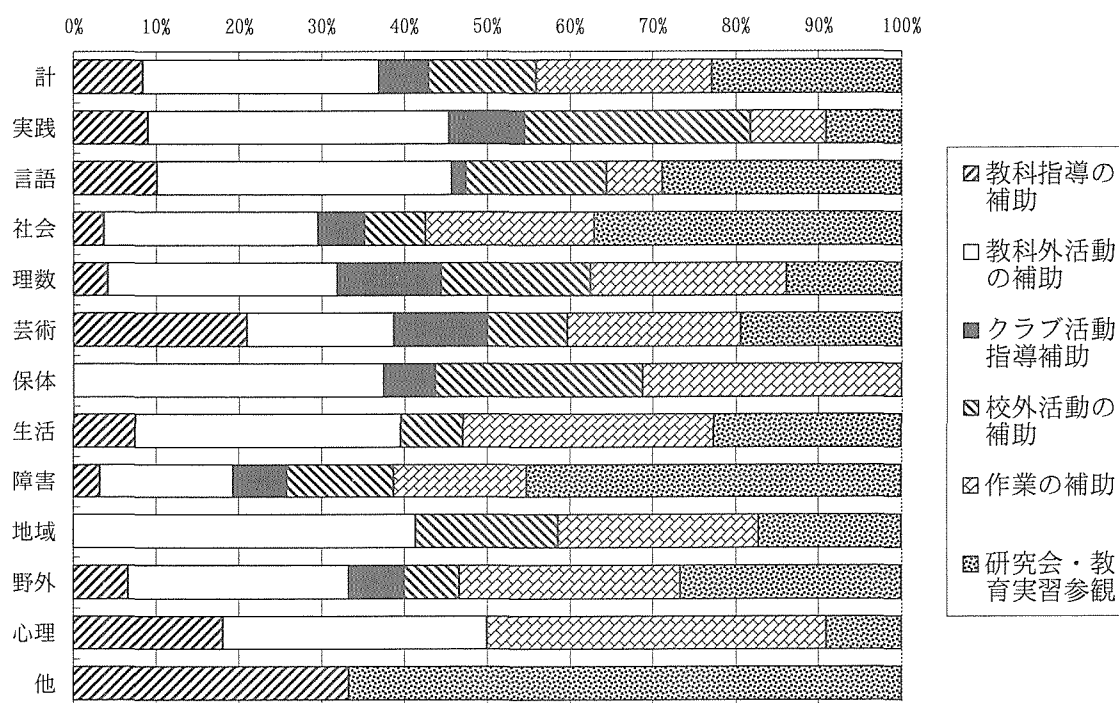


図4 附属学校園における専攻別活動参加状況

附属学校園での活動に参加する学生全体で見ると、教科外活動の補助や研究会・教育実習参観の活動に参加する学生の割合が高い。これは、教育実習参観や研究会への参加、そして遠足への参加の受入可能人数が多いため、参加者数も多くなっていることによるものである。

専攻別に見ると、社会科学教育専攻や言語教育専攻では研究会・教育実習参観への参加の割合が、教育実践科学専攻や保健体育専攻では校外活動の補助への参加の割合が、平均よりも高い割合を示している。芸術教育専攻では教科指導の補助の割合が高いが、これは附属松本中のC11・美術の日引率指導への参加者が多いことによる。また、保健体育専攻や地域スポーツ専攻で教科外活動の補助の割合が高いのは、運動会や陸上クラスマッチなどの運動系の行事への参加者が多いためである。

4. 2. 3 養護学校

最後に、養護学校における活動を専攻ごとに分析すると、図5のようになる。

養護学校での活動に参加する学生全体で見ると、行事の補助への参加が約半数を占め、ついで、日常の指導補助や校外学習の補助となっている。

専攻別の参加状況については、全63活動に132名が参加しているため、それを専攻別に見ても、はっきりとした傾向はわかりにくい。いずれの専攻も、活動数が多い日常の指導補助への参加者が多くなっていることが読みとれる程度であろう。なお、その他の学生（科目等履修生・大学院生等）で、養護学校での活動に参加する学生はいなかった。

このように、機関の種類ごとに専攻別の活動参加状況を分析することによって、学生は自分の所属する専攻に関係の深い活動に参加する傾向にある、ということが明らかになってきた。「教育参加」を履修している学生は、自分の興味・関心に応じて参加する活動を希望してその活動に参加するのであるが、参加する活動を希望する際には、機関名や日程だけでなく、「教育参加」の活動への参加を通して得ることのできる体験の内容とその多様性についても考慮させる必要がある。

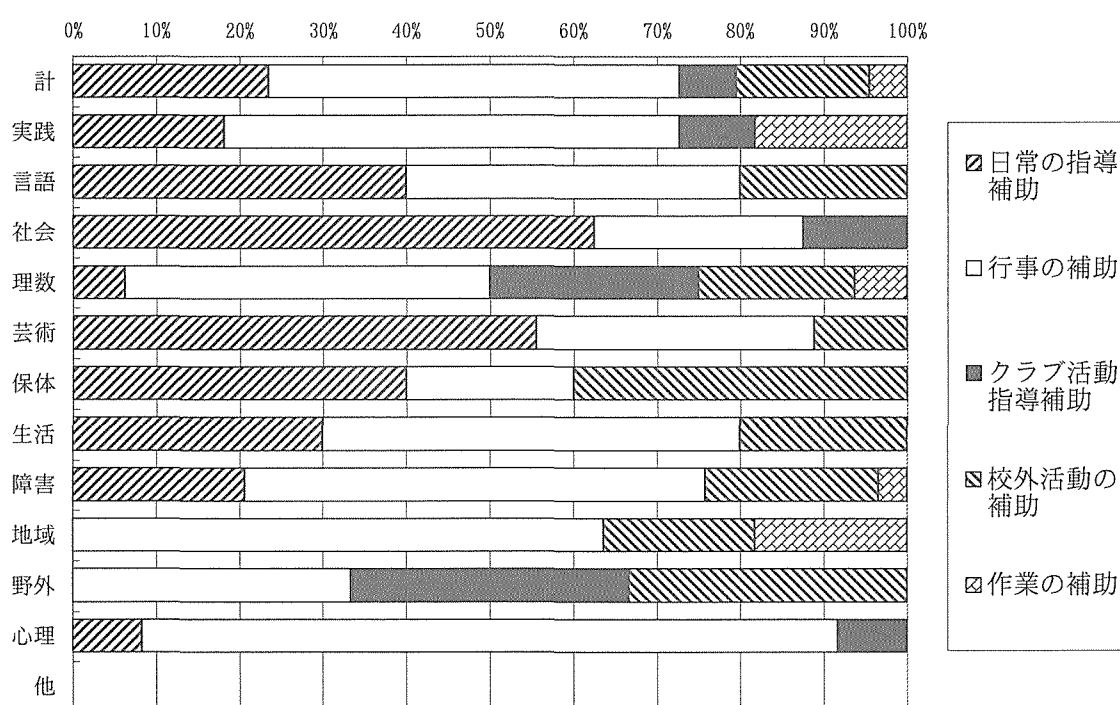


図5 養護学校における専攻別活動参加状況

5 おわりに

本研究を通して、16の協力機関で行われる「教育参加」の諸活動に参加することによって体験できる内容が機関別そして活動の種類別に明らかになった。また、学生の参加希望状況と専攻ごとの参加状況をとらえることができた。

今後の課題として、教員として経験しておくべきことを、「教育参加」に参加することによってどのように提供できるかを考慮しながら、協力機関との連携をさらに深めて、「教育参加」を充実させていきたい。また、どのような種類の活動を体験した学生が教職への高い意欲をしめしているか、つまり、どのような経験をすれば教職への意識を高めることができるかについて、教職意識調査の結果とも関係させながら分析していく必要がある。

本研究の成果は、今後の教育参加の改善にも役立てることができると思われる。従来は、学生が参加する活動を選択する時には、選択する活動の合計ポイント数にだけ注意すれば、特に制限を設けていなかった。また、実践センターで調整する際も、附属学校園、社会教育施設、養護学校という機関の種別を重視してきた。今後、同様の形式で「教育参加」が行われる場合には、「参加することによって経験する体験の内容」という視点を重視しながら、参加する活動の希望調査や調整を行う必要があると思われる。

註

- 1) 表2中の機関名は略称を用いている。順に次の通りである。社会教育施設：独立行政法人国立信州高遠少年自然の家、独立行政法人国立妙高少年自然の家、独立行政法人国立乗鞍青年の家、長野県松本青年の家、長野県小諸青年の家、長野県松川青年の家、長野県須坂青年の家、長野県望月少年自然の家、長野県阿南少年自然の家。附属学校園：信州大学教育学部附属幼稚園、同附属松本小学校、同附属松本中学校。養護学校：長野県松本盲学校、長野県寿台養護学校、長野県安曇養護学校、長野県花田養護学校。
- 2) 附属学校園における活動のうち、附属幼稚園の活動1つと附属松本小の活動6つは、受入学生人数が「何名でも可」となっている。そのため、ここでは便宜上、参加者数を受入学生人数とみなして計算した。そのため、附属小学校の充足率はちょうど100%となっている。
- 3) 図2中では、専攻名では略称を用いている。順に次の通りである。実践：学校教育教員養成課程教育実践科学専攻、言語：同言語教育専攻、社会：同社会科学教育専攻、理数：同理数科学教育専攻、芸術：同芸術教育専攻、保体：同保健体育専攻、生活：同生活科学教育専攻、障害：養護学校教員養成課程障害児教育専攻、地域：生涯スポーツ課程地域スポーツ専攻、野外：同野外教育専攻、心理：教育カウンセリング課程心理臨床専攻、他：その他（科目等履修生、大学院生等）。図3～5も同様である。

文献

- 信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター編（1997）『平成8年度臨床経験の授業科目「教育参加」の開設と学生の反応』、72p.
- 信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター編（1999）『地元教育機関と連携した「教育参加」の実践』（平成10年度教員養成学部フレンドシップ事業報告書（その2））114p.
- 信州大学教育学部附属教育実践総合センター編（2000）『地元教育機関と連携した「教育参加」の実践（第4集）』（平成11年度フレンドシップ事業報告書（その1））131p.
- 信州大学教育学部附属教育実践総合センター編（2001）『地元教育機関と連携した「教育参加」の実践（第5集）』（平成12年度フレンドシップ事業報告書（その1））100p.
- 小林輝行・土井進（1997）「授業科目『教育参加』の開設について」、『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』No.5, pp.143-149
- 土井進（1998）「臨床経験の授業科目『教育参加』の開設と効果」、日本教師教育学会年報第7号『学校の問い直しと教師教育の課題』、pp.155-170.
- 別惣淳二・長澤憲保（1999）「社会教育施設と連携した事前指導・観察参加実習の成果－教員養成の個性化を志向した教育実習カリキュラムの開発－」、日本教師教育学会年報第8号『新免許法とこれからの教員養成』、pp.119-130.

（2001年9月25日 受理）